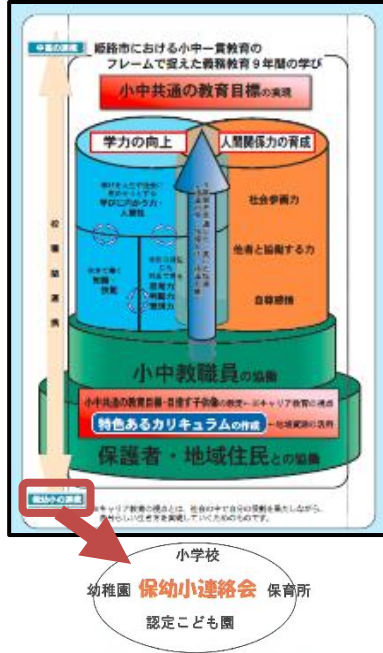


ふれあい つながり かわら版

ふんわりスタート

幼児期と小学校の円滑な接続

義務教育9年間の学びや、中・高連携の取組については、これまでの「かわら版」で何度も紹介してきました。今回の「かわら版」では、保幼小連携の取組について紹介します。



姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育・ICT教育推進係
(079)221-2120



た。そして毎年、保幼小連携担当者(幼・小)、生活科担当者(小)等、関係職員を対象に、保幼小連携教育研修会を実施し、カリキュラム活用の啓発を行っています。

http://kisintrasv.city.himeji.hyogo.jp/soshiki_view.php?so_cd=1&so_cd2=2&so_cd3=2&so_cd4=0&so_cd5=0&bn_cd=3
(姫路市教育委員会ポータルサイト内)



冊子は各校園に1冊ずつ配布(令和三年) ※市役所一階市政情報センターでも販売

アプローチカリキュラム(幼児期)

今回は、この冊子の中の接続期の子供の実態やそれぞれの時期で大切にしたい指導内容や指導方法を示した「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」を紹介しています。

アプローチ期(一般的には5歳児の2学期以降を指しますが、各園の実態に応じて設定)に身に付けさせたい力や育てたい力を具体的に明らかにし、一人一人がその力の育つ方向に向かっていくかを確かめ、保育実践と小学校教育との接続に役立てるカリキュラムとなっています。

姫路市では、幼児期と小学校の接続期で育てたい力を「人と関わる力」「生活する力」「学ぶ力」の3つに整理しています。小学一年生を担任される先生方は、ぜひ指導の参考にしてください。

スタートカリキュラム(小学一年生)

小学校に入学した児童が幼稚園・保育所・認定こども園等での遊びや生活を通して学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。

幼児期の子供の姿について全教職員で共通理解を図り、児童が安心して、自信をもって小学校で学んでいくように、カリキュラムを活用してください。

2 スタートカリキュラムを創ろう *ひめじ保幼小連携教育カリキュラムP.37~46参照

4月 第1週	安心をつくる時間 (新しい友達関係を築く時間)	生活科を中心とした学習 (食育・園遊会指導)	教科等を中心とした学習	給食
第1日(入学式)				
わくわくタイム				
1時間目	入学式 入学式に参加する。	小学校の生活を知らう ・物の用途の仕方やトイレ・給湯等の使い方を自分の生活と照らし合わせながら学ぶ。 ・挨拶と進学の仕方や話の聞き方など、友達と対話しながら学ぶ。	元気にあいさつ ・挨拶や進学の仕方やその意味について考える。 ・健康観察の仕方を知る。 友達になろう ・じゃんけんゲームなどをする。 ・ならびっこをする。 ・自己紹介ゲームなどをする。	
2時間目	行事	学級指導 生活	国語 生活	
3時間目	初めての学級 クラスや担任の名前、自分の席などを覚える。 小学校でも、困ったことがあれば先生に話すことを確認する。	自己紹介しよう 自分の名前や好きなものをクラス内で紹介する。 帰りの用意の仕方を知る プリントの使い方・片付け方を知る。	歌を歌おう ・子供の知っている歌を歌う。 読み聞かせ ・先生に絵本を読んでもらう。 下校準備 ・下校道の仲間や遊び方を知る。 ・安全な下校の仕方について理解する。	
4時間目		学級指導 生活	生活 学級指導 下校指導	

入学当初は、子供の興味・関心や集中できる時間を考慮し、45分にこだわらず柔軟に運用するよう計画しています。

児童に幼稚園や保育所の環境を思い起こさせ、安心して学習に取り組んでいけるようにカリキュラムの工夫が必要となります。

小学校に入学した児童が、学校生活や学習活動において不適応を起し、その状態が一定期間継続する「小一プロブレム」の問題が指摘されることがありますが、その解決の手立てとなるのが「校種の枠を超えた連携」です。

小学一年生は、ゼロからのスタートではありません。児童の「できる」を生かし、小学校生活をスタートさせることが大切です。そのためにも、「保幼小連絡会」での情報共有とあわせて、「ひめじ保幼小連携カリキュラム【補足版】」のご活用をお願いします。